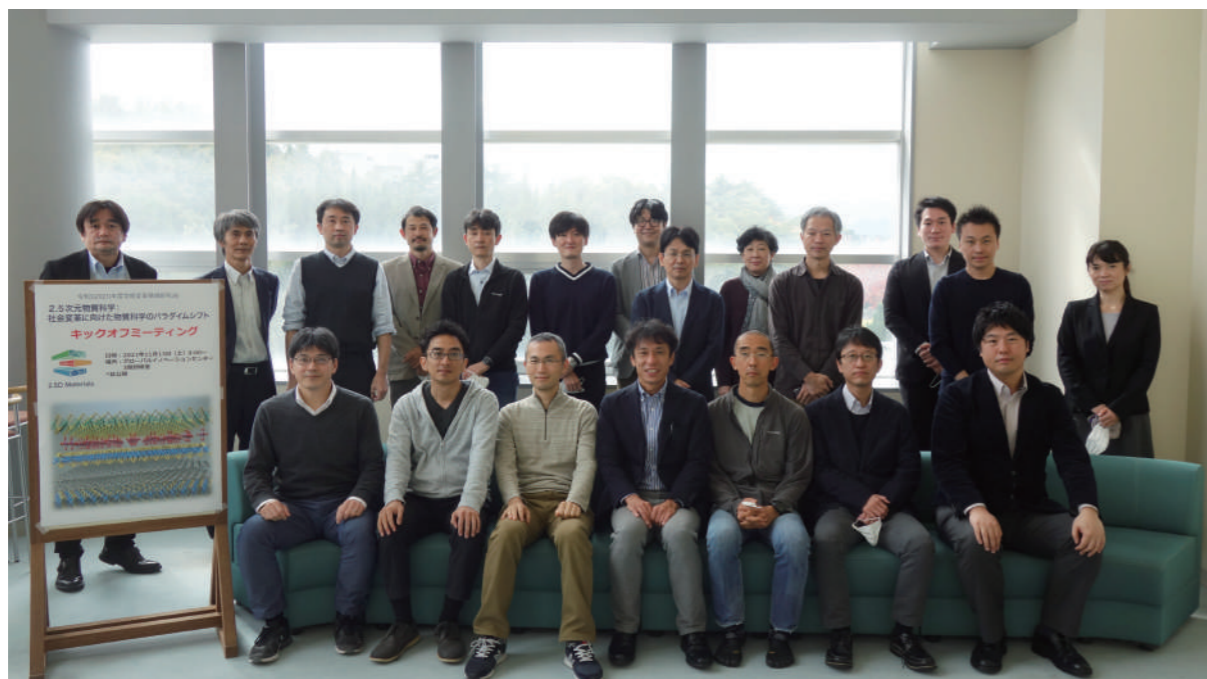


令和3(2021)年度学術変革領域研究(A)

2.5次元物質科学：
社会変革に向けた物質科学のパラダイムシフト

2.5D Materials

キックオフミーティング (第1回領域会議)レポート



第1回

九州大学
グローバルイノベーションセンター (福岡県春日市)

2021年11月13日、九州大学筑紫キャンパスグローバルイノベーションセンターにて、学術変革領域「2.5次元物質科学：社会変革に向けた物質科学のパラダイムシフト」の第1回領域会議が開催されました。

ほとんどの会議がオンラインになっている状況の中、対面での議論が重要だという考えが多く、早い段階からオンサイト会議の準備が進められました。幸いにも新型コロナウイルス感染症の拡大が小康状態にあったこともあり、しっかりとした感染対策を講じることで、領域の計画研究者20名が無事に顔を揃えることができました。

活発に交わされた議論

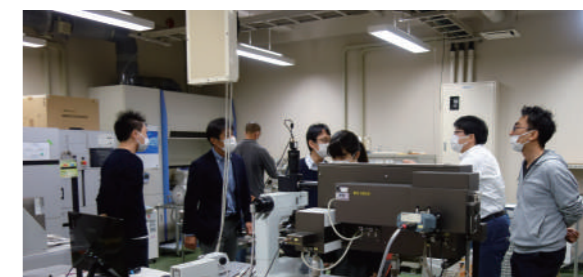
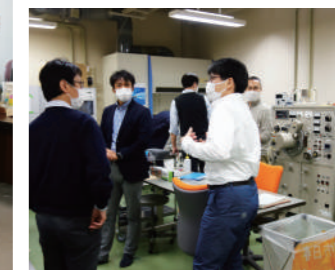
今回の会議は、領域全体で目指すビジョンを共有・確認しつつ、領域内で新たな共同研究を円滑に進められるよう話し合うことを主眼として開かれました。実際に、各研究者がそれぞれの研究内容を紹介した後、他のメンバーと互いの強みを生かして、研究をいかに発展させるか深く議論を交わしました。発表後の質疑・ディスカッションの時間では、話が途切れることなく、研究を発展させるためのアイデアや共同研究の案が数多く提案され、休憩時間に至るまで熱い議論が続きました。

対面会議の重要性

今回の会議では、共同研究の種になるような発展段階の研究についても数多く紹介があり、領域内連携を進めやすいアットホームな雰囲気が感じられました。また、普段の学会では顔を合わせる機会がなかった異なる分野の研究者との議論は、研究を進めるうえでたいへん良い刺激になりました。こうした多彩な本学術変革領域のメンバーと協働することで、新しい研究分野の開拓につながるようなブレイクスルーがこれから多数生み出されるだろうと確信できた1日となりました。



キックオフミーティングの様子。

休憩時間中の様子。
共同研究に向けて活発な議論が行われた。

共同利用拠点の1つである吾郷研究室の見学ツアーも行われた。

お知らせ

- ・合成、集積、分析(光)、分析(構造)の4つの共同利用拠点が始動しました。
- ・3月7日、8日に第2回領域会議がオンラインで開催されました。
- ・米国ブルックヘヴン国立研究所の Jurek Sadowski 博士を講師としてお招きし、第1回 2.5次元物質国際連携セミナーを3月15日にオンライン開催しました。
- ・6月17日に第1回 2.5次元物質科学若手交流会を名古屋大学工学部にて開催予定です。



荒井 俊人

東京大学 工学系研究科
(広報担当)

イラスト: 門田 英子

領域ホームページ <https://25d-materials.jp>
(ニュースレター公開日: 2022年 3月24日)